

山ごころ

大滝せせらぎ

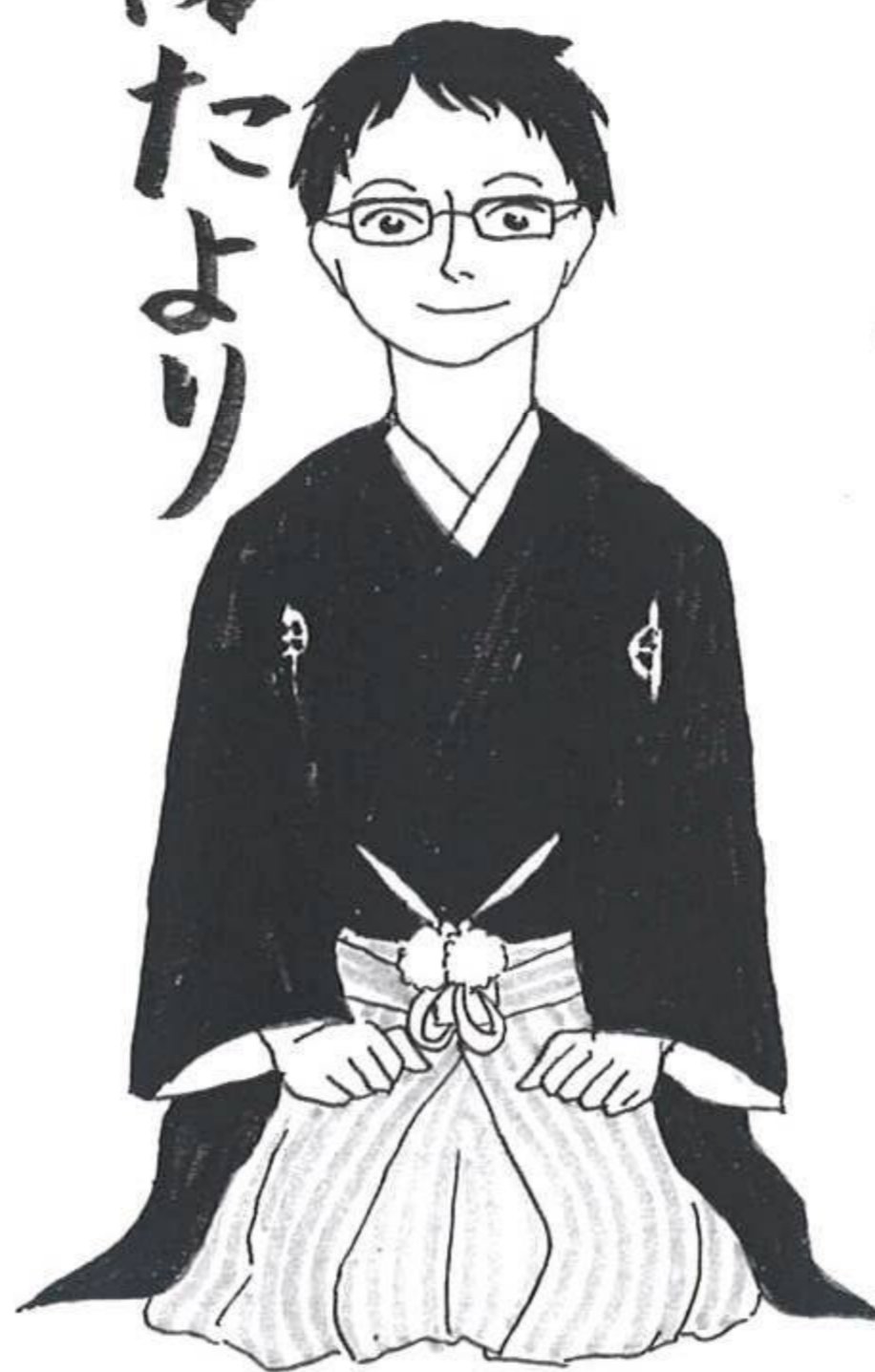
里ごころ

はたおと秩父

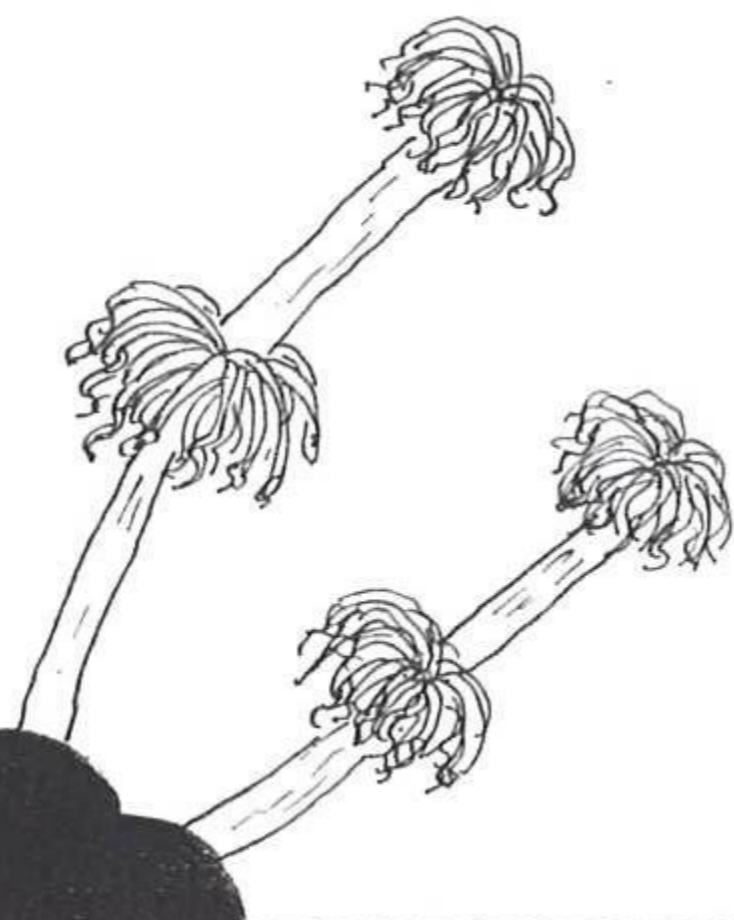
秩父市

地域おこし協力隊たより

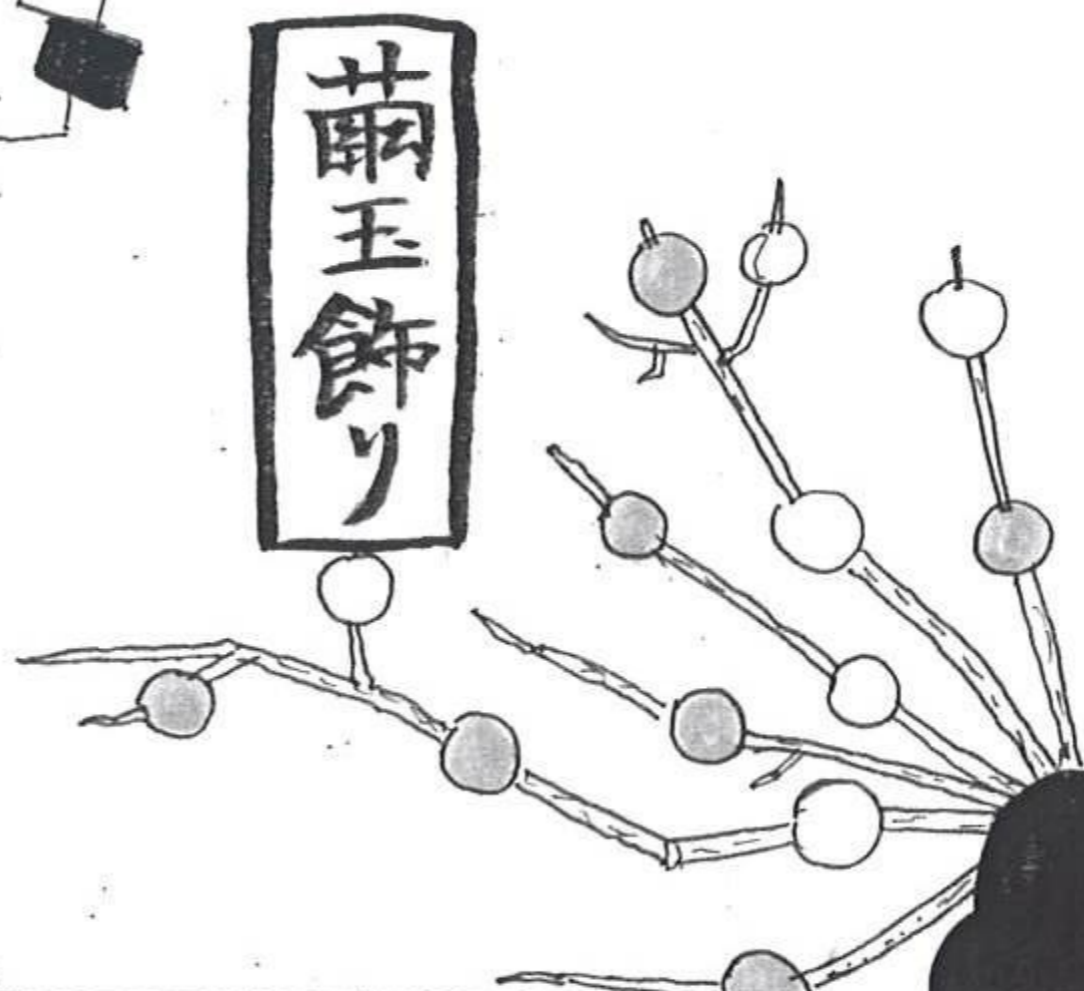
No. 38 (一月号)



あけまして
おめでとーうーげんます
本年もよろしく
お願い致します



けずり花



南玉飾り

お手伝い日記 くまきあつめ、まきわり編

あたたかい日がつづきましたが、いよいよ朝晩がひんやりしてきましたね。

冬暖かいと大雪が降る、などと言われませんが、実際はどうなのでしょうか。

このところありがたいことに、お手伝いに呼んで頂いて、色々作業を覚えさせて頂いています。

10年近く前に農業研修を受けて以来、イザ体を動かすと普段使わない筋肉が悲鳴を上げました。

まずは新集め。私の印象では、太めの枝を拾うイメージだったので…

とんでもない丸太はこぼり。

ですが担いでみると、おゆ、スニまで重くない。

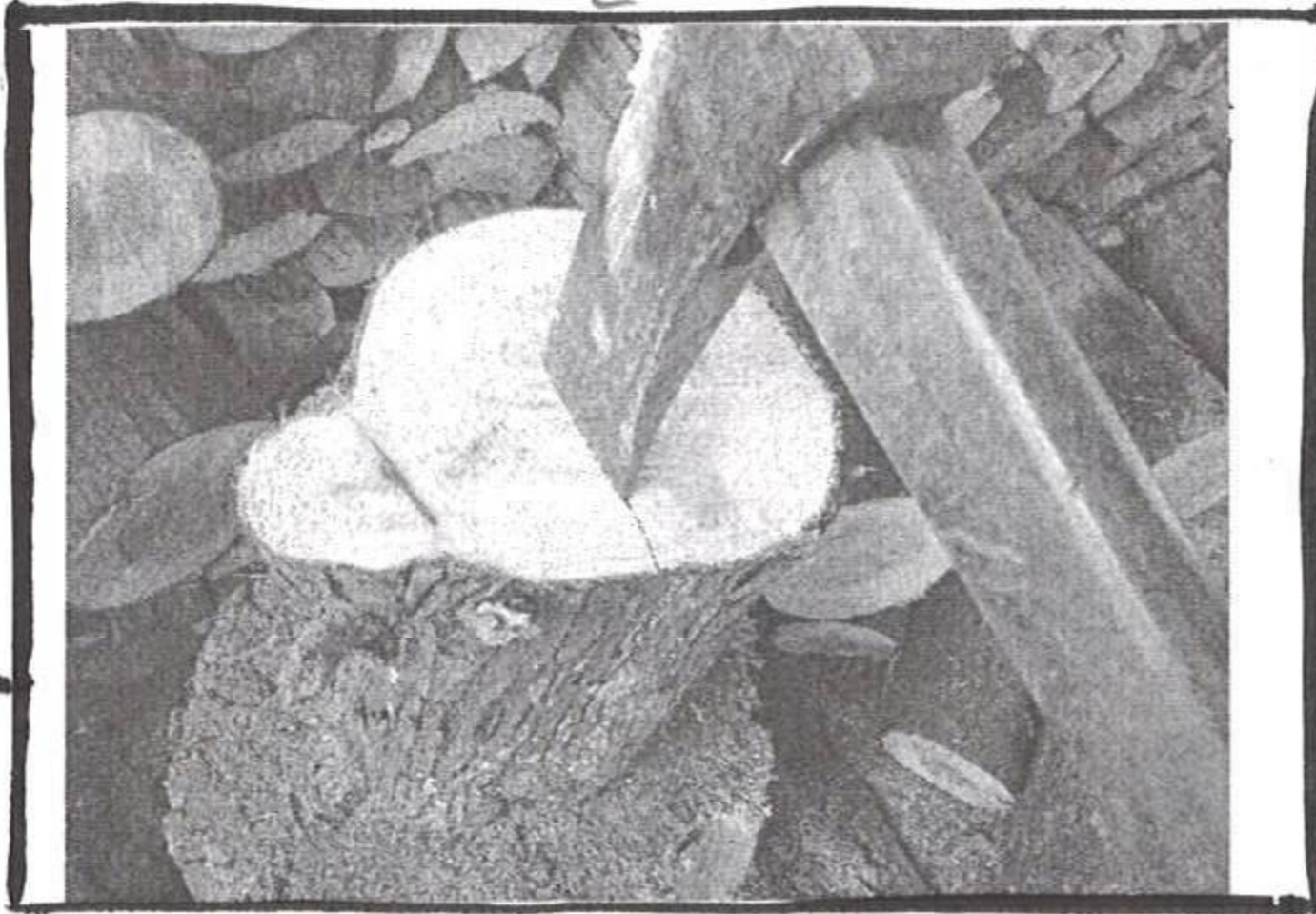
代採したあと木村の中に置かまわっている間に水分が抜けているのですね。

しかし、実際を木を上まで運ぶとなると

全身運動で、一本一本運ぶごとに足が重くなっている…全身が悲鳴を…

わっわっわ気がついたのですが、丸太をかつぶ時、

利き手の逆で運ぶと楽なのです。



お次は薪割り。斧ももつのも初めてで、最初の一刀は…スッ！とから振り！

しかし、私も負けず嫌いなもので、そこから苦戦しつつも時間経てば外さなくなってきました。

そして、木の目をみつけることができてきたように

なったり、振り下ろした方も、まっすぐ振り落として

切っ先が当たるタイミングで腰を落として、

体重を乗せて打たき割る！…ここで、

斧を引きつつ割れ目を大きくする法、

などを自分で工夫する余裕も出てきて。

未経験のことに説明するときは、トコトと同じように

に力物なので、慣れれば誰にでも出来る！

などと偉そうにすることも出来るように…

(まだ4回しかやっていないのですが！)

他にもさかさばりへさかさばりも経験したのですが、それはまたの機会に…

…

ご意見ご要望はお手伝い…なにごとでもありましたら、

秩父市役所大滝総合支所地域振興課 谷口ま

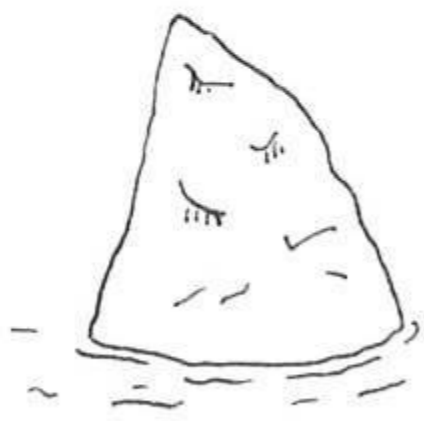
TEL・0494-5510862

全国地域おこし協力隊サミット

in 兵庫

11月28・29日に全国地域おこし協力隊サミットが行われました。28日は講演やパネルディスカッション、29日は分科会でした。分科会では兵庫県内の各地域に分かれて、それぞれの協力隊の活動を見学しました。秩父市では南あわじ市の沼島に行き、協力隊の活動報告と沼島の案内や周遊クルーズに参加しました。沼島の協力隊の方が丁度11月いっぱい任期満了で、3年間の沼島での熱い思いの話は本当に感動しました。参考になった言葉は「それは事実だけれど真実ではない」です。ひどいことを言われたり、話しかけて無視されたりしたことは事実であつても自分の受けた印象は真実ではない。知らない土地に来て、その地域と向き合つていく時にその言葉は必要だと思いました。

私も任期は長くて一年と少しですが、柔かい心で秩父銘仙をとりまく環境に向き合つていきたいと思ひます。



沼島はイザナミと



イザナギが最初に降り立ち
天婦の契りを結んだといわれています。



銘仙豆知識と文化銘仙

富岡製糸場に続き、明治10年に官営絹糸紡績所が設立されました。ここでは製糸工場でできた糸の屑や製糸できない繭を短い繊維にして紡いだ糸を作っていました。これを「絹紡糸」と呼び、値段が安く絹としての材質には問題ないため、紡績所が近隣にあった伊勢崎は積極的に絹紡糸を取り入れました。使用には賛否両論ありましたが、絹紡糸を使用したものには両端に赤い糸を一本あつ入れることで和解しました。絹紡糸を使用した銘仙は「文化銘仙（当時新しいものには文化と付けられました）」と呼び、桐生・足利・伊勢崎等で量産されました。一方秩父では絹紡糸の使用を拒み続け、昭和のはじめ頃になつて使用許可が下りるようになりました。

参考 別冊太陽 銘仙と大正昭和のおしゃれ着物と山平凡社

ハタオト
秩父

お問い合わせ
秩父市役所 商工課
地域おこし協力隊
佐俣 葉津子
Tel: 0494-25-5208
Mail: syoko@city.chichibu.lg.jp

秩父歳時記1月

秩父祭り、冬の彩

大滝氷まつり

大滝氷まつりは、1月9日から2月2日の期間開催される、三十植の氷柱と中津川の氷壁の二ヶ所の「氷」のお祭り。

1月24日(日)と21(日)には、

ウツドルーフ奥秩父オートキャンプ場で

特産品の販売と甘酒、そして谷口が作るゆず湯を販売する予定です！
(中津川の氷壁に近い、こまどり荘でもゆるかもつ、必未定です！)

三十植の氷柱(みそつちのつららし)

山石肌から湧き出る湧水によってできる、高さ8m幅約30cmにもなる、水まつりです。

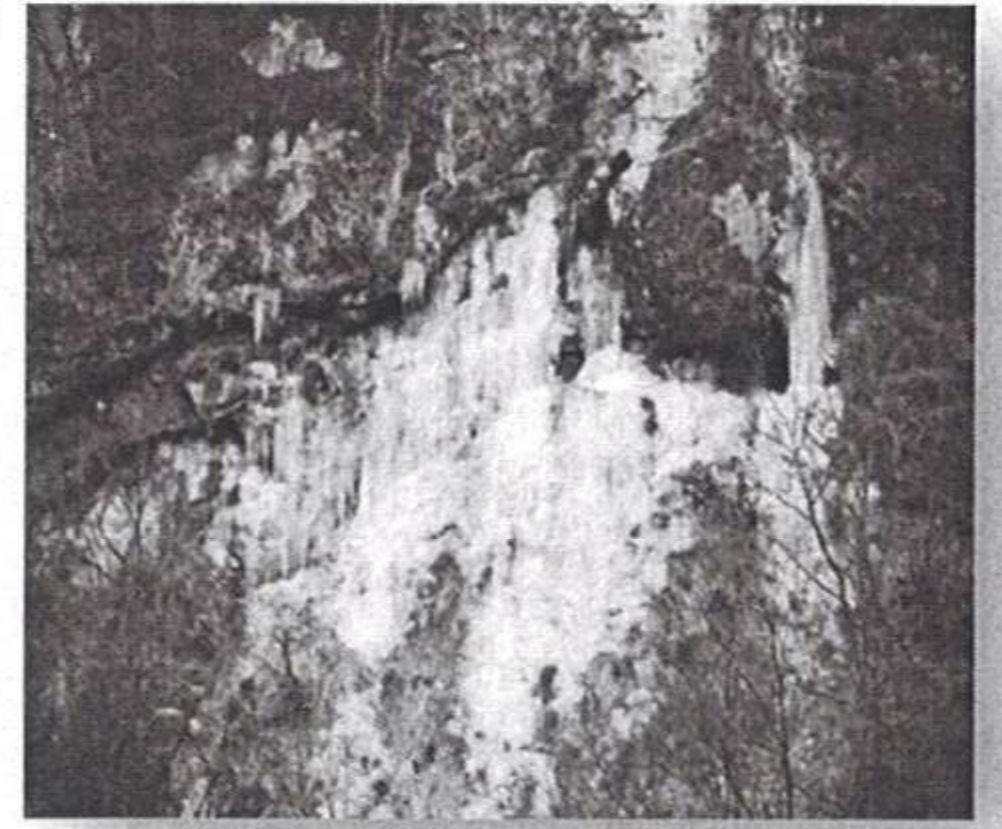
以前はあまり注目されていなかったこの場所は、十年程前から本格的に観光喚起され、駐車場の整備、ライトアップの実施など、今では秩父を代表する名所となりました。

その昔「額沢(ぬかがぶち)」と呼ばれており、

その語源は「ウツドルーフ駐車場から

氷壁へ降りる坂道の途中の「額沢水天宮」の石碑と札もごらん下さい！

<三十植の氷柱>



<中津川の氷壁>

中津川の氷壁(ぬかがぶちのひょうへま)

中津川の持神と氷を抜ける時、高さ50mを
超える氷壁を見る事ができます。

こちらは道路土からの見学となりますので、
十分にご注意ください。奥秩父でもさらに奥、
とっても寒いです。防寒対策等の充分な準備を!!

さて、ここまで見られる前提で書かせていただきましたが、
必ず見られるわけではないこと、それ自体も楽しみの
一つではないでしょうか。その日その日の天候によって
見づらかったり、雪にまみれてしまったり、それと
合わせて魅力だとして、私は考えられています。

と、言っている谷口は、まだ生で見たいな
ので、見られる日を心待ちにしています!!

詳細や直前情報などの確認は、
秩父観光協会大滝支部まで!!

TEL: 0494-55-0707